中稻

〔萬葉集十秋相聞〕寄水田

橘乎守部乃五十之門田早稻刈時過去不來跡爲等霜

〔萬葉集十四東歌〕相聞

爾保杼里能可豆思加和世乎爾倍須登毛曾能可奈之伎乎刀爾多氐米也母

右四首、○三首略下總國歌、

〔空穗物語初秋二〕かくて宮おとゞくにぐよりまいれるきぬ御らむじて、すまゐのせちに、仁壽殿ふぢつぼの御しやうぞく、いかできよらにして奉らむ、○略中いかにぞ御ほにどもれいのかずさぶらふや、よしのりいふ、御ほには、わせのよねをおほせにつかはせこけむ、ことしはわせのよねいとをそきとしなりといふ、

〔運歩色葉集那〕中稻

〔書言字考節用集六生植〕遲稻時珍云、稉稻八九月收者、中同

〔成形圖說十六五穀〕字流志禰○中略

中手、字類抄○中略中手稻、○註略二番物、俗云二番早稻、中稻、遲稻、以上本艸綱目、時珍云、八月收者爲遲稻、半夏稻、蔡邕月令章句、十月穫稻、人君嘗其先熟、故在九月熟者謂之半夏、按半夏稻亦中稻の事ぞ、周の十月は今の八月なり、禮記舍人懸種稑之種、註後種先熟曰稑、稑亦作穋、毛詩黍稷重稑、疏上に同じ、周禮亦おなじ、

中手は節中年稻にて、手は年の約たるなり、祝詞式に奥手のことを奥津御年とあるにてしるべし、年は勢と通ふがゆゑに、和勢ともいひ、又年稻を約めて志禰ともいへり、

〔清良記七上〕五穀雜穀其外物作分號類之事○中略

疾中稻之事

一佛の子　一壹本子　一備前稻　一小備前稻　一畔越　一小畔越　一野鹿　一犬白稻

一小白稻　一大下馬　一拐張　一疾饗膳